

まもなく開演 花巻市民劇場第50回公演

【問い合わせ】
文化会館
(☎24-6511)

市内に伝わる民話や偉人、宮沢賢治の作品など、さまざまなテーマで毎年公演を行っている花巻市民劇場。本年度第50回目を迎えます。

第8回公演から参加し、これまで何度も演出や舞台監督を務めてきた、同実行委員会の高橋信也会長に花巻市民劇場の魅力と今回の公演の見どころを伺いました。

市民有志が作り出す「劇場」

花巻市民劇場ができる前、市内には「劇研はなまき」「劇団青い鳥」「稽古場」など、複数の市民劇団がありました。昭和50年に開館した文化会館が、大ホールを使って自主事業をする際、市民劇団や市民の中から有



花巻市民劇場実行委員会
会長 高橋 信也 さん

志たちが集まって一つの舞台を作ることになった、これが「花巻市民劇場」の始まりです。

昭和52年の第1回公演からずっと「劇団」でなく「劇場を作るために集まった有志たち」というスタイルなので、花巻市民劇場には実行委員会の役員はいても、固定の劇団員はいません。毎年参加者を集めるのは大変ですが、ちよつと興味があるという人も参加しやすい、この気軽さが良さの一つだと思っています。

でも、気軽に参加できるといっても、舞台を作る気持ちは真剣です。お金と時間をかけて来てくれるお客



▲昨年12月10日に行われた旗揚げ会合。実行委員会のメンバーら約30人が参加した

次世代へ つないでいきたい

舞台は総合芸術です。マニュアルがないものなので、自分が先輩たちから受け継いできた技術や心を、次の世代にしっかりとバトンタッチしていきたい。そして、地域の歴史や方言を未来へ伝えていけたらと思います。50年続いたんだから、100年を目指したいですね。

本市から文化発信を続ける花巻市民劇場。第50回の節目となる公演に、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

絶賛稽古中！



キャストコメント

とき子役(主役)
照井 ひなた さん
(花巻北高1年)



観劇が好きで、裏方などで舞台に関わってみたいと花巻市民劇場に初参加したら、主役に抜擢されて驚きました。時子の境遇は、今の時代と全く違い新鮮に感じます。舞台では、最初は自分のことだけを考えていた時子が、駅員さんたちと交流するうちに周りの人たちのために行動できるようになる、成長を見てほしいです。

良い舞台を作れるようがんばります！

駅長役
吉田 伸吾 さん
(72歳)



花巻市民劇場には第1回公演から参加しています。第4回の「夜空の軽便鉄道」初演では駅員役でしたが、今回は駅長に出世しました。

集まって何かを作るのが好きだから、50回目の公演まで関わられてこられたのだと思います。いろんな世代と交流できるのが花巻市民劇場の良さの一つ。舞台を見て興味を持ったら、ぜひ舞台を作る側として参加してもらえたらうれしいです。

第50回公演「夜空の軽便鉄道」

●あらすじ

ある晩、軽便鉄道の線路に突然飛び出してきた少女。汽車は急停車するが、車掌の伊藤は少女を見逃してやった。

翌日、軽便鉄道国有化と花釜線全線開通のうわさでもちきりの花巻駅に、昨晚の少女・時子が訪ねてきた。寝たきりになった父と幼い弟を置いて家を出た母を探しているという。伊藤は時子に亡くした妹を重ね、世話をすることにした。

果たして、時子の母は見つかるのか。父と約束した、軽便鉄道に乗って釜石に海を見に行く日は来るのか。

●日時

- 2月28日(土)、午後6時30分開演(午後6時開場)
- 3月1日(日)、午後2時開演(午後1時30分開場)

●会場 文化会館

●チケット 一般1,000円、高校生500円、中学生以下無料(全席自由席)

●フレイガイド 文化会館、なはんプラザ、正時堂、伊藤精、砂田屋石鳥谷店、佐々長醸造

現在、花巻市民劇場で50周年を記念したキャラクターとロゴを募集中です！詳しくは、花巻市民劇場のSNSをご覧ください。稽古の様子なども紹介しています。

